



岩淵小 学校だより



岩淵小 HP

令和6年9月2日
9月号
北区立岩淵小学校
校長 荒木 克之

力いっぱいチャレンジ ～パリオリンピックより～

校長 荒木克之

驚くほどに暑い日が続いた夏休みも終わりました。まだまだ暑い日が続いていますが、子どもたちの元気な声が学校に戻ってきて、学校もいつも通りのエネルギーにあふれていくと思っております。9月からも、元気あふれる子どもたちと一緒に、学校生活をよりよいものにしていきたいと思います。

さて、今年の夏は、パリオリンピックが開催されました。数々の熱戦をご覧になった方も多いかと思います。私も、メダルを獲得した選手の素晴らしいパフォーマンスに感嘆し、あと一步のところまで涙をのんだ選手たちの頑張りに心が動かされました。マイベストは、男子バレーボールのイタリア戦です。驚くようなプレーの連続で、手に汗握りました。本当にあと一步でした…。惜しかった…。

世界中にいる数多くのアスリートが全力を尽くす姿は、どの種目も感動的なものでした。オリンピックには、メダルの有無や勝ち負けも当然ありますが、「参加している全ての選手がチャレンジし、成長している。」ということは、間違いのない事実だと思います。目標に向かって挑むことの価値を、改めて学ばせてもらった夏でした。

また、私の中で一つ印象に残った新聞記事がありました。ご存じの方もいらっしゃるかと思いますが、2016年のリオデジャネイロオリンピックから、難民選手団（戦争や迫害から逃れるために祖国を離れた選手たちで構成されたチーム）が参加するようになりました。今回のパリオリンピックでは、その難民選手団から、ボクシング女子75キロ級でシンディ ウィナー・ジャンケウ ヌガンバ選手が、見事に銅メダルを獲得しました。難民選手団のメダル獲得は、今大会が初めての快挙です。

彼女は、アフリカのカメルーンの出身ですが、事情があり、国を離れている選手です。母国を離れるという辛い環境に耐えながら、厳しい練習を続けることは容易ではなかったでしょう。彼女は本大会の後に「世界中の人々に伝えたいのは、努力すること。心を込めればなんでも達成できる。」という言葉を残しています。彼女は努力を続けることの素晴らしさを、世界中に示してくれました。特に、「心を込めれば」という一言に、困難を乗り越えた彼女の志を感じました。

岩淵小学校の合言葉の1つに「力いっぱいチャレンジ」があります。9月は、夏の名残が残りつつも、新しい季節への移り変わりを迎えるときです。この時期は、子どもたちがいろいろなことにチャレンジする気持ちが高まる、絶好の機会です。そして、10月には運動会が、12月には学芸会があります。普段の学習や、各行事など、子どもたちが「力いっぱいチャレンジ」し、いろいろな場面で子どもたちが輝くように、教職員一同で引き続き頑張ってお参ります。どうぞよろしくお願ひします。